

白川(しらかわ)

登録番号：第1920号

育成者：磯部 暁 松田明治

登録年月日：平成元年7月15日

藤田賢輔

登録者：熊本県

来歴：「青島温州」の珠心胚実生

(熊本市水前寺6-18-1)

特性

戦後、「市原」、「今村」、「十万」、「青島」などの高糖系統が注目を浴びたが、いずれも晩生で栽培しにくかった。この中でも「青島」は最も有望で、原産地の静岡県で大増産され、九州では熊本県が奨励系統として増植した。「青島」の改良系統として「寿太郎温州」などが出ているが、いずれも熟期が早くなり栽培しやすくなっている。本種は熊本県果樹試験場で育成した「青島」の珠心胚実生の中から選抜したもので、早熟化した変異である。「十万温州」の珠心胚実生系である「大津4号」も早熟化している。珠心胚実生に現れるこのような早熟の変異は注目に値する。

■栽培特性

「青島温州」よりも枝が伸びやすく樹勢は強い。樹勢の強さは珠心胚実生による若返りのためと思われるが、本種は実生時代からトゲの発生はなく落ち着いた樹性を示している。枝は直立しやすいので、初期から開帳ぎみに整枝し、結実するまでは密生した枝を間引く程度とし、強い切り返しは行ってはならない。表年には着果過多になるので適正摘果を行い予備枝を確保する配慮が必要である。

■果実特性

果実の大きさは「青島温州」と同程度であるが、葉数の多い有葉果が少ないため大果はできにくく、玉揃いは良い。果形は「青島」に似て極めて扁平(果形指数=150)、果面は平滑で果皮はやや薄く、締まりは良い。着色は熊本の産地で10月中旬から始まり、11月中下旬に完全着色。完熟期の果皮色は濃厚である。果皮の着色と平行して果肉の熟度も進み、熟期は「青島」より10日早い。果汁の糖度は早くから高くなり、クエン酸含量も早く低くなる。収穫期は11月中下旬で、年内から年明けに出荷する。12月には糖度は13度、クエン酸は0.7%である。

■地域適応性

土層が深い場所では樹勢が旺盛になり過ぎ、結実も悪く、品質も良くない。これに対し、土層が浅く排水良好で日当たりの良い園では、連年結果し高品質の果実を生産している。温州ミカンはその系統でも上述のような適地性を持っているが、とくに本種は適地を選ぶ。(岩政正男)